

# 雲 取 山 山 行 記 録



目的地	雲取山	期 日	平成20年5月5～6日(祝)：5日…曇のち霧、6日…快晴
山人	笠原正雄・澄子	特 記	昨秋に続きもう一度。今度は山頂避難小屋で朝を迎える。

地名	(着)～(発)	記 事
5日(月)		
与板	午前4:50発	越後川口より高速通勤割引利用。運転しながら朝食。青梅ICより青梅街道。
青梅駅	9:00～9:20	一度満車で断られた町営駐車場に何とか駐車出来た。駅から臨時バスに乗る。
鴨沢	10:05発	約30分で鴨沢。パンと缶コーヒーを飲みながらゆっくり身支度を整える。バス停駐車場は満車だったが、少し上がった旧校舎跡地に駐車が可能だ。穏やかな曇り。
杉植林地へ	10:20	歩きだして5分もしないうちに下山者とスライド。コンクリート道歩き15分。
一度車道に上る	10:45	山道から舗装車道に上る。20台程の未舗装駐車スペースがある。5分後、車道から左手の登山道に上る。続々と下山者が来る。
バンダナ	11:05	杉植林地が続く。菅笠からバンダナに替える。5分後、一軒の廃屋跡を通る。
2人とスライド	11:20	同年代の1人は朝5時発と言う。何処までかは聞かなかったが、登り3時間とのこと。まさか雲取山頂往復ではあるまい。右手のコンクリート貯水槽を通過。
小広場で休む	12:00～12:10	杉植林地が終わり始めると右下斜面は新緑。そして下方に舗装道と建物が見える。直前で水場がある。ここに来て休む。小広場の筏組丸太に腰をおろす。
堂 所	12:30～1:00	指導標柱がある。大勢が休んでいる。登路の小高い所で湯を沸かしおにぎりランチ。350缶を空ける。男3人と同席。水源用だろうか、針葉樹が植林されている。
左から沢音	1:05	マムシ岩と思われる所を通過。これまで右から小袖川の音が聞こえていたが、今度は左から片倉谷の沢音が変わって来た。所々の樹に巣箱が取り付けられている。
ザックカバー	1:30	霧が濃くなり、僅か雨を感じる。カバーを付ける。若者2隊に追い越される。
ブナ坂分岐	1:40	七ツ石小屋との分岐。数人と会う。左折の下りから始まるブナ坂方面へ向かう。霧のせいで昼なお暗く感じる。更に下山数名とスライド。
唐松谷分岐	2:20	石尾根防火帯に上がる。少し休む。鴨沢後発で、途中追い越された大学生10数人隊と再び会う。彼らは雲取山荘で幕営と言う。風が出てきて、雨具上衣を着る。
奥多摩小屋前	2:55～3:15	水を汲みに降りる。途中から階段下りの水場は往復8分。10分後、富田新道分岐。
山頂避難小屋	4:05着	10分前より1本杖を使う。霧の中に小屋が見え始めてから5分で到着。小屋は17～18人程度で7割がたの混み具合。外の展望も無いことから既に寝袋に入っている者も居た。一杯飲んでα飯で夕食。その後何人かが入室してきた。一度外に出ると、かなり年配の女単独が上って来た。ちょうど満員と言ったところだったが、昨夜は超満員で、土間まで塞がったとの話を聞いた。
就 寝	6:00	夜中に外に出てみたが、期待した都心の夜景は霧で全く見えない。
6日(火)		
起 床	午前4:00	外に出る。都心の夜景が見えた。東の空が赤い。その赤みが増せば夜景が目立たなくなってくる。振り返って目を凝らせば富士山を確認出来る。
日 の 出	4:45	富士山の良く見えて来た。山頂に行ってみたが、小屋前からの方が良い。
石尾根下山	5:40発	小屋に戻り餅を焼いて朝食。皆が出発して行き、最後に昨日の年配単独女のみとなった。米寿に富士山に登るのが夢と意気軒昂だ。米寿なら米山をと勤める。小屋前に残っていた外国人ペアから写真を撮って貰い下り始める。快晴だ。
奥多摩小屋前	6:25	今度は妻が水を汲みに行く。付近に幕営あり。
唐松谷鴨沢分岐	6:45	昨日の上山道を右に見送り、直進する。男女3人隊が先行する。
七ツ石山	7:00	先行3人隊は巻き道を進んだが、我々はピークに上る。
高丸山トラバース	7:35	暑くなって上着を脱ぐ。昨年上ったので高丸山はトラバース。
日陰名栗峰	8:05	高丸山ピーク道と合わせて後、今度は日陰名栗峰へ。登り約15分でピーク着。下りの途中で単独幕営者が外に出て景色を楽しんで居た。

鷹ノ巣避難小屋	8:30~8:40	小屋内部を除く。幕営1張。ここの地図看板は分かり易い。少し休んで出発。
鷹ノ巣山	9:10~10:10	誰も居なかった。湯を沸かしα飯で昼食。暫らくすれば、石尾根後続者や逆方面からの上山者がやって来て賑やかになる。但し大パーティーでは無い。良く晴れて快適だ。南アルプスは山名は知らないが、霞んではいるものの確認出来る。
単独者と会う	11:00	木の根の張り出しと岩混りの急降下。単独者とスライド。この辺りから、最近痛みを感じていた右膝が更におかしくなり、ひねり具合で時折やや強い痛みが走る。
倉戸山分岐	11:15	尾根を辿って進んで来た。倉戸山熱海線との合流点。
六ツ石山	11:40	ここまでの間、新緑の道で若い女性2人隊に追い越される。六ツ石山はピークを巻いている。出合った男に促されて、分岐から戻る様に登り頂に立つ。こんもりとした開放的な広場、水根バス停への標柱あり。
〃分岐	11:55	分岐に降り戻ってのち、木陰で一休みして歩き出す。夫婦が近くで休んでいた。
傾いた祠	12:05	立ち木の間木に祠があった。御嶽神社祈禱神璽と読める。
分岐から杉林へ	12:30	「絹笠をへて奥多摩駅」と「三ノ木戸林道をへて奥多摩駅」の分岐に出る。単調な尾根歩きに飽きてきて、林道のほうが近いかと思い地図も確認しないままそちらに向かう。ところが、杉植林地の九十九折れ急降下だ。水源林巡視路とある。
新緑が現れる	12:55	日差しを遮る程の杉林。膝に負担が大きい急降下がやや緩み、右手に新緑を見る。
林道に上る	1:10	作業モノレールを跨ぎ、一棟の別荘地に出る。そこから舗装林道が始まる。下に国道が見える所もあるが、延々と舗装歩きが続く、足裏が痛くなる。
車に乗せて貰う	1:40	林道始点付近でランニングをしていた男が車で下って来た。合図して、乗せて貰う。丁度単独若者も下って来たので、彼と3人で駅まで送って貰う。そこから駅まで車で7~8分かかった。歩けば相当な距離だ。尾根の途中で見かけた夫婦を追い越す。彼らは絹笠経由だったようだ。
駐車場発	2:00	昨日満車だった駐車場は数台を残すのみ。半袖に着替える。
御嶽神社へ		青梅市内方面に進み、秩父線御嶽駅前を右折して、ケーブルカーに乗り、御嶽神社参拝に向かう。

昨年 11.11~12 に日原林道を2時間進み、大ダワ経由で上がり、雲取山荘に泊まった。山荘は山頂を外れている。今回は、山頂避難小屋で朝を迎え、鷹ノ巣山からの先の尾根を奥多摩駅まで下るルートを設定した。鴨沢ルートは連休と言うこともあってか大勢の人が歩いていた。中には周回の者もあり、鴨沢までの時間を訪ねられもした。下山の奥多摩駅までは予想を超えて、時間が掛かった。車に乗せて貰えなかったら、もう1時間近く歩かなければならなかっただろう。さほどの景観も無いので、六ツ石山から奥多摩湖に降りたほうが良かったかも知れない。都心の夜景と富士山をもう一度眺めたいと思いついた。初日は雨が当たらなかったものの、霧で全く展望は利かなかった。けれども、未明より霧が取れて来て、未明の都心夜景と旭日を見ることが出来た。秋よりも少し靄っていたが、再度富士山を眺めながら歩く山旅だった。